

プレスリリース

2025年4月23日

富士レビオグループとハイデルベルク大学病院による 結核の診断薬開発などに合計約 6.9 億円を投資

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（以下、GHIT Fund）は、結核の診断薬開発および顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases: NTDs）であるシャーガス病とリーシュマニア症に対する治療薬開発の2件に、合計約 6.9 億円の投資を決定しました¹。

結核に対する診断薬開発に約 6.8 億円の投資

結核は 2023 年時点で毎年約 1,080 万人が罹患し、約 125 万人が死亡した深刻な感染症であり、単一の感染症として世界最大の死因となっています。国連が掲げる SDGs の目標（持続可能な開発目標）として 2030 年までの終息が掲げられていますが、その達成には正確で簡便な診断技術が不可欠です。現在の結核検査は感度やコスト、検査の複雑さに課題があり、特殊な設備や喀痰の採取が必要なため、すべての患者に適用できません。特に、子どもや喀痰を出せない患者や、医療設備が不足する地域では診断が難しい場合もあり感染拡大を招く要因となっています。この課題を解決するため、米国カリフォルニア州に拠点を置き、診断薬の分野において超高感度検出技術を有する Fluxus 社³、臨床検査薬の開発を行う富士レビオ株式会社³、ドイツのハイデルベルク大学病院が取り組む新たな結核診断薬の開発に約 6.8 億円を投資します。

本プロジェクトでは、Fluxus 社の最先端の超高感度技術を活用し、卓上型自動分析装置を用いた尿中結核バイオマーカー（LAM）測定試薬の開発および性能評価を行います。さらに、尿中 LAM 測定を応用した超高感度ポータブルポイントオブケア(PoC)システムの重要構成品の設計開発を行います。本技術により幅広い患者に対し迅速で正確かつ利用しやすい診断が可能になり、臨床結果の改善および感染者数の減少に貢献することが期待されます。

また同時期に、北里大学、長崎大学、東京大学、および Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi)によるシャーガス病とリーシュマニア症に対するスクリーニングプロジェクトに約 1,590 万円の投資を決定しました。

各プロジェクトの概要や開発段階など、詳しくは別紙 1 をご覧ください。

2025 年 3 月 31 日時点で、36 件のプロジェクトに投資しており、内訳として、15 件の標的・探索研究、12 件の非臨床試験、9 件の臨床試験⁴となります。GHIT Fund のこれまでの累積投資金額は約 382 億円となります（別紙 2）。

注記

¹ これらの案件は、2023年6月～2024年7月にかけて実施した公募 RFP2023-002、RFP2024-001（スクリーニングプログラム、製品開発プログラム）の中から選定され、承認されたものです。

² WHO（世界保健機関）<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/tuberculosis> 参照

³ Fluxus社と富士レピオ株式会社は、富士レピオグループの一員です。

⁴ 薬事申請の段階にある案件を含みます。診断薬開発において、途上国における患者サンプルを使用した臨床的妥当性の評価を行う段階に入った案件については、表現の便宜上、臨床試験として扱う。

【グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）について】

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）は、日本政府（外務省、厚生労働省）、製薬企業などの民間企業、ゲイツ財団、ウェルカム、国連開発計画が参画する国際的な官民パートナーシップです。世界の最貧困層の健康を脅かすマラリア、結核、顧みられない熱帯病（NTDs）などの感染症と闘うための新薬開発への投資を行っています。治療薬、ワクチン、診断薬を開発するために、GHIT Fund は日本の製薬企業、大学、研究機関の製品開発への参画と、海外の機関との連携を促進しています。詳しくは、<https://www.ghitfund.org/jp> をご覧ください。

別紙 1. 今回の投資案件概要

ID: G2023-204

プロジェクト タイトル	結核の PoC 迅速診断を目的とする尿中 LAM の超高感度検出
製品開発 パートナー	1. Fluxus 社 (米国) 2. 富士レビオ株式会社 (日本) 3. ハイデルベルク大学病院 (ドイツ)
疾患	結核
製品	診断薬
開発段階	製品デザイン、製品開発
投資額	¥ 679,783,110
ステータス	新規
概要	<p>【プロジェクトの目的】 本プロジェクトでは、ポータブル ポイントオブケア(PoC)システムの開発および超高感度な尿中リポアラビノマンナン (LAM) 測定試薬の開発を行います。この LAM 測定試薬は、Fluxus 社の卓上型自動分析装置を用いた尿中 LAM 測定試薬をベンチマークとして開発します。</p> <p>【プロジェクト・デザイン】 以下のことを実行して、プロジェクトの目的を達成します。 1) 卓上型自動分析装置を用いた超高感度な尿中 LAM 測定試薬の開発および性能評価を行います。また、この測定方法をカートリッジ型の PoC 測定試薬の開発に応用します。 2) 機能的カートリッジおよび PoC LAM 測定試薬のプロトタイプの開発とともに、超高感度ポータブル PoC システムの重要構成品の設計開発を行います。</p>
プロジェクト 詳細	https://www.ghitfund.org/investment/porfoliodetail/detail/240/jp

ID: S2024-122

プロジェクト タイトル	微生物培養液からのシャーガス病治療薬シード化合物の探索
製品開発 パートナー	1. 北里大学（日本） 2. 長崎大学（日本） 3. 東京大学（日本） 4. Drugs for Neglected Diseases initiative (DNDi)（スイス）
疾患	シャーガス病／リーシュマニア症
製品	治療薬
開発段階	スクリーニング
投資額	¥ 15,945,864
ステータス	新規
概要	<p>【プロジェクトの目的】 本プロジェクトの目的は天然物化学的アプローチを用いて微生物培養液をスクリーニングすることにより、GHIT/DNDi のヒット基準を満たし、さらなる開発が可能なシャーガス病治療薬の新規シード化合物（薬を開発する元になる化合物）を同定することです。</p> <p>【プロジェクト・デザイン】 本プロジェクトではアカデミア 3 機関（北里大学、長崎大学、東京大学）および DNDi がそれぞれの専門を活かして、1 年半の研究期間に微生物の生産するシャーガス病治療薬シード化合物を少なくとも 5 つ同定することを目指します。また、プロジェクトの過程で同定されるシャーガス病治療薬シード化合物は内臓リーシュマニアを引き起こすリーシュマニア原虫に対する活性も評価して創薬ポテンシャルを検証します。</p>
プロジェクト 詳細	https://www.ghitfund.org/investment/portfoliodetail/detail/241/jp

別紙 2. これまでの投資実績（2025年3月31日時点）

1. 累積投資

累積投資額 約 382 億円

累積投資件数 136 件（内訳：進行案件 36 件、終了案件 100 件）

詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。

投資実績：<https://www.ghitfund.org/investment/overview/jp>

ポートフォリオ：<https://www.ghitfund.org/investment/portfolio/jp>

開発状況：<https://www.ghitfund.org/investment/advancingportfolio/jp>

臨床試験：<https://www.ghitfund.org/investment/clinicalcandidates/jp>

【注意事項】

1. GHIT Fund では、製品開発案件に対して「助成」することを、「投資」と表現しています。製品開発に対して資金提供だけを行うのではなく、積極的に進捗管理に関与し、成果が見込めないプロジェクトについては直ちに中止するなど、厳格なポートフォリオ・マネジメントを行っています。一般的に用いられる、金銭的利益を目的とした「投資」とは意味合いが異なります。
2. 「継続投資」とは、過去に GHIT Fund から投資を受けている製品開発パートナーが、GHIT Fund から新たな投資を受ける際に用いることを指します。
3. 本プレスリリースの別紙 1 に記載した各プロジェクト概要は、製品開発パートナーが GHIT Fund に提出した資料から該当箇所を抜粋したものです。詳しくは、GHIT Fund のウェブサイトをご覧ください。